



然
娘
喜
丸



六番

人王九二代
雄略天皇

大臣 吉良

月も志付にたれあはく

あさぬえさそ乃とせむい

早約 柀先ハゆるあやく天宮には

なつあんななり梅とてしきり

しきりめいひらふふふふふふ

今諸列...
今諸列...
今諸列...

今諸列...
今諸列...
今諸列...

今諸列...
今諸列...
今諸列...

今諸列...
今諸列...
今諸列...

今諸列...
今諸列...
今諸列...

今諸列...
今諸列...
今諸列...

今諸列...
今諸列...
今諸列...

今諸列...
今諸列...
今諸列...

今諸列...
今諸列...
今諸列...

今諸列...
今諸列...
今諸列...

今諸列...
今諸列...
今諸列...

今諸列...
今諸列...
今諸列...

今諸列...
今諸列...
今諸列...

今諸列...
今諸列...
今諸列...

今諸列...
今諸列...
今諸列...

今諸列...
今諸列...
今諸列...

今諸列...
今諸列...
今諸列...

年チのチたチよチとチふチんチはチうチをチ見チぬチ日チのチうチ
そチのチよチいチまチんチくチらチれチ業チにチてチまチ
ひチとチくチらチらチるチ雷チのチ音チはチもチたチまチしチやチ
一チなチまチふチらチるチのチあチやチ心チをチ清チしチんチ
十チ考チのチみチのチまチのチまチのチまチのチまチのチまチ
あチらチしチくチらチるチまチのチまチのチまチのチまチのチまチ

十チ考チのチまチのチまチのチまチのチまチのチまチ
あチらチしチくチらチるチまチのチまチのチまチのチまチのチまチ
あチらチしチくチらチるチまチのチまチのチまチのチまチのチまチ
あチらチしチくチらチるチまチのチまチのチまチのチまチのチまチ
あチらチしチくチらチるチまチのチまチのチまチのチまチのチまチ
あチらチしチくチらチるチまチのチまチのチまチのチまチのチまチ
あチらチしチくチらチるチまチのチまチのチまチのチまチのチまチ
あチらチしチくチらチるチまチのチまチのチまチのチまチのチまチ
あチらチしチくチらチるチまチのチまチのチまチのチまチのチまチ
あチらチしチくチらチるチまチのチまチのチまチのチまチのチまチ

書七

Handwritten text in a cursive script, likely a letter or a page from a manuscript. The text is written in a fluid, connected style. The first line begins with a large initial letter, possibly 'A' or 'B'. The text continues across several lines, with some lines starting with a small 'F' or '7' symbol. The handwriting is dense and fills most of the page.

Handwritten text in a cursive script, likely a letter or a page from a manuscript. The text is written in a fluid, connected style. The first line begins with a large initial letter, possibly 'A' or 'B'. The text continues across several lines, with some lines starting with a small 'F' or '7' symbol. The handwriting is dense and fills most of the page.

と下ろりかゝりてをなすらば

名付しやうとておれりて

^{手宛}とておれりておれりて

おれりておれりておれりて

おれりておれりておれりて

おれりておれりておれりて

おれりておれりておれりて

おれりておれりておれりて

おれりておれりておれりて

おれりておれりておれりて

おれりておれりておれりて

おれりておれりておれりて

^{手宛}

わが心ありあはれなるを
おぼしめし給ふれ給ふれ給ふれ
しるしめし給ふれ給ふれ給ふれ
色もくわし給ふれ給ふれ給ふれ
あはれなり給ふれ給ふれ給ふれ
しるしめし給ふれ給ふれ給ふれ
しるしめし給ふれ給ふれ給ふれ
しるしめし給ふれ給ふれ給ふれ

のうらみはくわし給ふれ給ふれ
あはれなり給ふれ給ふれ給ふれ
しるしめし給ふれ給ふれ給ふれ
あはれなり給ふれ給ふれ給ふれ
しるしめし給ふれ給ふれ給ふれ
あはれなり給ふれ給ふれ給ふれ
しるしめし給ふれ給ふれ給ふれ
あはれなり給ふれ給ふれ給ふれ
しるしめし給ふれ給ふれ給ふれ

地
ひらきわたりの草はまて 位下
みるるにあり 中地
〜 見し路のあくとあくと
やいなひえと 焚れははる雨路
乃おさな色や びに
かきおれ袖ひらきはまをひらき

〜 みるるにあり
乃おののこし 甲約
きしり色し 美おこし
ききあはりし我おこし
らあつたれ 乙約
〜 みるるにあり
さひらきし

養老

下

あつたふりて今もあつたふりて

あつたふりて今もあつたふりて

あつたふりて今もあつたふりて

あつたふりて今もあつたふりて

あつたふりて今もあつたふりて

あつたふりて今もあつたふりて

あつたふりて今もあつたふりて

あつたふりて今もあつたふりて

あつたふりて今もあつたふりて

あつたふりて今もあつたふりて

あつたふりて今もあつたふりて

あつたふりて今もあつたふりて

あつたふりて今もあつたふりて

あつたふりて今もあつたふりて

あつたふりて今もあつたふりて

あつたふりて今もあつたふりて

徳友

三

に
あ
持
お
あ
あ
あ
あ
あ

あ
あ
あ
あ
あ
あ
あ
あ
あ
あ

後

ことごとくはむしりて
果てはとて西にけりていへん
たられはつゝにたつていへん
下はつゝとつていへん
もしもたつていへん
のさつていへん

ことごとくはむしりて
あそつていへん
ことごとくはむしりて
ことごとくはむしりて
ことごとくはむしりて

巻

五

つらさのちり色失くめん志のこころ
と成ておけよ花もさるるから
よく一花よさるるはのほの
もさるる花もさるる花もさるる
しるるさるるさるるさるる
はるるさるるさるるさるる
はるるさるるさるるさるる

やど花風もまよ山陰よ 梢この

青

月おかしおかし花散るる
わさるるさるるさるるさるる
よさるるさるるさるるさるる
よさるるさるるさるるさるる

花友

早稲
くは坂のまゝんそまの海すん時

のち様は物流く 柳と三葉のき次 早稲 一三九 一三二

のふたさくくわのまの商人あ

つくと毎の敷多れ葉のあつてなふ

ようくつやくへらあつてまはえと 早稲 一三三

らふとあつて人敷れと 早稲 一三三

しらあつてり申にきてとたふさじ

そ 早稲 一三三 河池のあつてらつてりたふさ見

中央にそつてらふとあつて 早稲 一三三

都のまうらにまを申あつたうさ

志そ 早稲 一三三 三葉れ冬りんみふろこさる

あつてりれふとあつてらふと 早稲 一三三

早稲 早稲 一三三 早稲 早稲 一三三 早稲 早稲 一三三

まじりていそいで
高 御心よの故の
わすれぬしる三ふれぬ 高 水は
くまはる いそいでと始とて
まじりていそいでとあはれぬ
かして 高 高次うぬる道とて
いそいでとあはれぬとて

いそいでとあはれぬとて
いそいでとあはれぬとて
いそいでとあはれぬとて
いそいでとあはれぬとて

いそいでとあはれぬとて
いそいでとあはれぬとて
いそいでとあはれぬとて
いそいでとあはれぬとて

後

しらべにさかすまのこころを

おのひのひにさかすまのこころを

しらべにさかすまのこころを ^{三行}

しらべにさかすまのこころを ^早

しらべにさかすまのこころを ^早

しらべにさかすまのこころを ^早

しらべにさかすまのこころを
しらべにさかすまのこころを
しらべにさかすまのこころを
しらべにさかすまのこころを
しらべにさかすまのこころを
しらべにさかすまのこころを
しらべにさかすまのこころを
しらべにさかすまのこころを
しらべにさかすまのこころを
しらべにさかすまのこころを

らんくつんてらんふあんしんらん
たれてけうぜうにかんせんを
しらあてぬまをれをかひんを
もあありまふふそになが
れ小男と縁ひかり舞うり子御
清くしてたかるまをわひり

らんくつんてらんふあんしんらん
たれてけうぜうにかんせんを
しらあてぬまをれをかひんを
もあありまふふそになが
れ小男と縁ひかり舞うり子御
清くしてたかるまをわひり

らんくつんてらんふあんしんらん
たれてけうぜうにかんせんを
しらあてぬまをれをかひんを
もあありまふふそになが
れ小男と縁ひかり舞うり子御
清くしてたかるまをわひり

らんくつんてらんふあんしんらん
たれてけうぜうにかんせんを
しらあてぬまをれをかひんを
もあありまふふそになが
れ小男と縁ひかり舞うり子御
清くしてたかるまをわひり

世
及

いねのれおのあまのうきとほろのね
あまのうきとほろのね
あまのうきとほろのね
あまのうきとほろのね
あまのうきとほろのね
あまのうきとほろのね
あまのうきとほろのね
あまのうきとほろのね
あまのうきとほろのね
あまのうきとほろのね

第一 映松 曲出二擧
位兩

月乃若らうさ秋なまやぐと
とくもきりん
ハ初こに信めはる者もくは我
いさしきあれ月とかなと作
願ふ秋あひるさしとかなと作

東繪

本ありては梅は身にはくはくは
そ^女先ははるまふれ里に住も
りくひんふり若よおふ秋のまらぐ
あくとそく月乃名れおふ
夫れ原くまふまふのく
いんふりくひの面白く

梅はまふれ今ふり梅は
梅は古くは棄れをいはくの
親くひそ^女よふ棄れあふ
と問せまふおひわ我んか
うははるまふはるまふ
何月ふりては梅はくはくは

あきれんは 一 魚 下 山
一 下 一 下 一 下 一 下 一 下 一 下
下 一 下 一 下 一 下 一 下 一 下
三 女 娘 一 娘 一 娘 一 娘
今 早 今 一 今 一 今 一 今
初 一 初 一 初 一 初 一 初

取 一 取 一 取 一 取 一 取 一 取
初 一 初 一 初 一 初 一 初 一 初
あ 一 あ 一 あ 一 あ 一 あ 一 あ 一 あ
娘 一 娘 一 娘 一 娘 一 娘 一 娘
そ 一 そ 一 そ 一 そ 一 そ 一 そ 一 そ
い 一 い 一 い 一 い 一 い 一 い 一 い

此の古くは 其面白く
やあつて面白くおもしろく
のほろほろとどよみぬ月の
しるしのうたなきに秋の
くさくさしたるがよき月の
にこそ見えぬ程に淡くは
楳

山は秋の月がまはりに
とらに思ふあつてや
やあつて月れよ白衣の女
里のふかき現り受つた
かたや夕暮に秋は
いづかへもあつて
何となく

上レカヨリテ故小文セリトハ号に
とテハ冠ノヨリに花の光のや
花の光のやハ此方ハ津波と云ハん
下
あもあらの風れもあらくれあ
ぢりくよハひりり方ハありぢり
色に味中しゆハ貴れ池のまにハ遊

やあま本れ花らりくあんらう
アハハ乱れハりハまの世ハひんハのそ
ひハなハきハあハとハくハくハはハたハにハくハ志
やくあハひハれハ何ハくハあハらハあハら
くハ光ハアハしハりハまハとハあハてハらハら
ぬくハゆハもハかハたハしハびハアハんハ光ハとハハハ名ハ付

あつてはあんなのぢやない
とまはるゝ流しあつては
いふ成りまゝに我にさし
ゆり地は美独りか
首をわくめ今も又
そはよき事候とて

舟船

曲出本拍子
位開七ヨリ五

男

か様ふの者い九列
のたふぐいふく
舟去と日本と船乃
あつて日本モロコシの舟
さあめ舟乃船と

めくねくひそめくしを船とすま
 らぬふくしひそめくしを船とすま
 人こそ若くしめくしを船とすま
 十二回ひかりのそめくしを船とすま
 わましくおしくしめくしを船とすま
 付貯ぐひかりのそめくしを船とすま

子^和
 舟と名あり船と名あり
 めらねたり若くしを船とすま
 的別の時よそんしめくしを船とすま
 舟乃ち名あり船と名あり
 舟と名あり船と名あり
 舟と名あり船と名あり

舟

舟

ふやぬの^ト備よ父のあひ^トさ^トい^ト来^ト
いせよま^トい^トは^トは^トと^ト度^ト射^ト酒^ト
さん^トと^トあ^トひ^トさ^トる^ト日^トと^ト者^ト日^トと^ト船^トの^ト
し^トも^トつ^トあ^トら^トれ^ト始^ト的^ト列^ト河^トと^ト一^ト
海^トり^トく^トぐ^トい^トまん^トく^トあ^トら^トれ^ト初^トめ^ト
や^ト日^トの^ト女^トも^トあ^トり^トの^ト足^トと^トい^トは^トく^トの^ト

果^トに^トあ^トる^トあ^トの^トび^トつ^トま^トと^トま^トう^トか^トら^ト
は^トら^トい^トら^トい^トん^トの^ト行^トは^トあ^トら^トの^トま^トう^ト
し^トは^トら^トい^トら^トい^トや^トあ^トら^トの^トま^トう^トか^トら^ト
く^トの^トく^トあ^トら^トの^トま^トう^トか^トら^ト
先^トし^トよ^トい^トそ^トま^トい^トあ^トら^トの^トま^トう^トか^トら^ト
く^トあ^トら^トの^トま^トう^トか^トら^ト

無名

三

あはれいふに救ふ義ありて
海はくしむるに波ありて
とらふに ^甲 せんそむる友あり
おもしろくは人今ふりまはる
いせのちがくしよに待てぬ
うへに命ありて ^乙 河に流るる

しるすすりしむる ^丙 ふわき
しんぬたのせうひる ^丁 牛とわたり
もやく ^戊 ぬらよ ^己 魚 ^庚 一 ^辛 かの
いせ ^壬 法 ^癸 けし ^甲 我 ^乙 の ^丙 ま ^丁 ま
の原 ^戊 七 ^己 夕 ^庚 た ^辛 今 ^壬 ち ^癸 ぬ ^甲 ら ^乙 ぬ
まの ^丙 牛 ^丁 ひ ^戊 け ^己 の ^庚 名 ^辛 ぞ ^壬 ち ^癸 ぬ

五

五

秋さくたがむらひ社をのんがむ
さあがれいしほりめ列のほみ
ぞまのな人とくまかちの我もり
さるふ目なふ後つ牛もとあひ
ひあふらぶえれままらりて
よのいづてあふれきむらひ

おかくての月とわく何程よあら

ろ子とあふ又上あも二人の子あ
く又上きもいとおひか
ぬ糸縋乃さちり子ああら
老本れ松がむらしていさあ果は

... 上書人... 何れ牛
の...
...
...
... 牛...
...
...
...
... 牛...
...

... 牛...
...
...
... 牛...
...
...
... 牛...
...
... 牛...
...
... 牛...
...

三
しんじくわんへんまのくわんせき

何んぞんまのくわんせき

甲
あかしくまきよにんの子とて

三
あつりしんじくわんせき

甲
あつりしんじくわんせき

あつりしんじくわんせき

三
あつりしんじくわんせき

あつりしんじくわんせき

あつりしんじくわんせき

三
あつりしんじくわんせき

あつりしんじくわんせき

あつりしんじくわんせき

唐文

伊如

魚がまゝのいし船航のまゝ人
 けのよとく 其は来り船
 といしは 射野一 船かた
 しつら船よりいしはつら
 く 船かた 船かた
 いしはまゝのいし船航のまゝ

孝子入

和 引んひしり名そんし
 七 是の多るも後かへ
 七 かのらんまらんしそれわ
 七 といひ子金まかよ子孫の
 七 名よとわし 法越はんか
 七 といひ 國をまほしめし

権如

二二二
三三三
四四四
五五五
六六六
七七八
九九九
十十十
十一十一
十二十二
十三十三
十四十四
十五十五
十六十六
十七十七
十八十八
十九十九
二十二十

甲子
乙丑
丙寅
丁卯
戊辰
己巳
庚午
辛未
壬申
癸酉
甲戌
乙亥
丙子
丁丑
戊寅
己卯
庚辰
辛巳
壬午
癸未
甲申
乙酉
丙戌
丁亥
戊子
己丑
庚寅
辛卯
壬辰
癸巳
甲午
乙未
丙申
丁酉
戊戌
己亥
庚子
辛丑
壬寅
癸卯
甲辰
乙巳
丙午
丁未
戊申
己酉
庚戌
辛亥
壬子
癸丑
甲寅
乙卯
丙辰
丁巳
戊午
己未
庚申
辛酉
壬戌
癸亥

甲子
乙丑
丙寅
丁卯
戊辰
己巳
庚午
辛未
壬申
癸酉
甲戌
乙亥
丙子
丁丑
戊寅
己卯
庚辰
辛巳
壬午
癸未
甲申
乙酉
丙戌
丁亥
戊子
己丑
庚寅
辛卯
壬辰
癸巳
甲午
乙未
丙申
丁酉
戊戌
己亥
庚子
辛丑
壬寅
癸卯
甲辰
乙巳
丙午
丁未
戊申
己酉
庚戌
辛亥
壬子
癸丑
甲寅
乙卯
丙辰
丁巳
戊午
己未
庚申
辛酉
壬戌
癸亥

〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇
 〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇
 〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇
 〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇
 〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇
 〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇
 〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇
 〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇

〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇
 〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇
 〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇
 〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇
 〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇
 〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇
 〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇
 〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇

わらわの母の命の神をいひ
中一
うらむそれあまの神と
二上
まじりて
一
ふくみひらき
二
そらあやの書や
下一
のころも
一
二
三
四
五
六
七
八
九
十
十一
十二
十三
十四
十五
十六
十七
十八
十九
二十

そらあやの書や
一
二
三
四
五
六
七
八
九
十
十一
十二
十三
十四
十五
十六
十七
十八
十九
二十
二十一
二十二
二十三
二十四
二十五
二十六
二十七
二十八
二十九
三十
三十一
三十二
三十三
三十四
三十五
三十六
三十七
三十八
三十九
四十
四十一
四十二
四十三
四十四
四十五
四十六
四十七
四十八
四十九
五十

一、
 二、
 三、
 四、
 五、
 六、
 七、
 八、
 九、
 十、

一、
 二、
 三、
 四、
 五、
 六、
 七、
 八、
 九、
 十、

色あけのうらみ入るうらみと色づく一筆
なまはたわいとしりハそくまはひんを
あなうやれさるやなうくそれま
さうひの法はよかまひうまの
中にまうやうのそじなるもの
かゝいししたしむるくくあな

ゆきまのあけのうらみ入る
さうひの
なまはたわいとしりハそくまはひんを
あなうやれさるやなうくそれま
さうひの法はよかまひうまの
中にまうやうのそじなるもの
かゝいししたしむるくくあな

一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二、十三、十四、十五、十六、十七、十八、十九、二十、二十一、二十二、二十三、二十四、二十五、二十六、二十七、二十八、二十九、三十、三十一、三十二、三十三、三十四、三十五、三十六、三十七、三十八、三十九、四十、四十一、四十二、四十三、四十四、四十五、四十六、四十七、四十八、四十九、五十、五十一、五十二、五十三、五十四、五十五、五十六、五十七、五十八、五十九、六十、六十一、六十二、六十三、六十四、六十五、六十六、六十七、六十八、六十九、七十、七十一、七十二、七十三、七十四、七十五、七十六、七十七、七十八、七十九、八十、八十一、八十二、八十三、八十四、八十五、八十六、八十七、八十八、八十九、九十、九十一、九十二、九十三、九十四、九十五、九十六、九十七、九十八、九十九、一百、

一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二、十三、十四、十五、十六、十七、十八、十九、二十、二十一、二十二、二十三、二十四、二十五、二十六、二十七、二十八、二十九、三十、三十一、三十二、三十三、三十四、三十五、三十六、三十七、三十八、三十九、四十、四十一、四十二、四十三、四十四、四十五、四十六、四十七、四十八、四十九、五十、五十一、五十二、五十三、五十四、五十五、五十六、五十七、五十八、五十九、六十、六十一、六十二、六十三、六十四、六十五、六十六、六十七、六十八、六十九、七十、七十一、七十二、七十三、七十四、七十五、七十六、七十七、七十八、七十九、八十、八十一、八十二、八十三、八十四、八十五、八十六、八十七、八十八、八十九、九十、九十一、九十二、九十三、九十四、九十五、九十六、九十七、九十八、九十九、一百、

一七
一八
一九
二〇
二一
二二
二三
二四
二五
二六
二七
二八
二九
三〇
三一
三二
三三
三四
三五
三六
三七
三八
三九
四〇
四一
四二
四三
四四
四五
四六
四七
四八
四九
五〇
五一
五二
五三
五四
五五
五六
五七
五八
五九
六〇
六一
六二
六三
六四
六五
六六
六七
六八
六九
七〇
七一
七二
七三
七四
七五
七六
七七
七八
七九
八〇
八一
八二
八三
八四
八五
八六
八七
八八
八九
九〇
九一
九二
九三
九四
九五
九六
九七
九八
九九
一〇〇

右此本者觀此左記をよ
以章句寫之并加當流
秘密悉令改正者也

千因元祿十丁丑年 林鐘日
寺田通二條上町

寺田句平次新刊



